

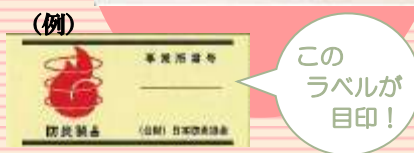
着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろの奥に、物を置かないようにしましょう。
- こんろのまわりは、整理整頓をしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書を、よく読んで正しく使いましょう。
- 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。



**防火品を使い
ましょう!**

火が接しても着火しにくい防火品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。



***一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです!!**

もし着衣に火が着いてしまったら..

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、
119番通報を行いましょう!!

問合せ先 東京消防庁北多摩西部消防署 電話 042-565-0119 (代表)

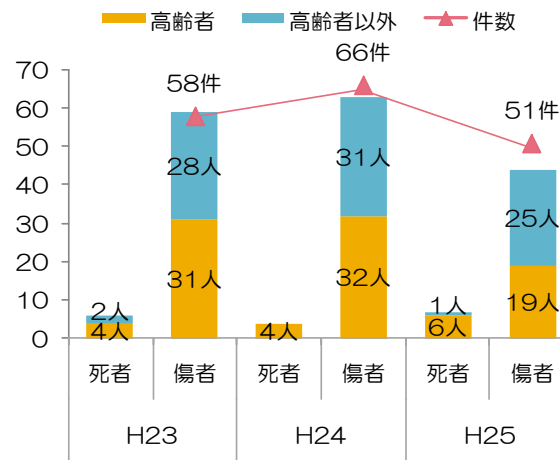
平成 27 年 2 月版

STOP! 着衣着火

東京消防庁

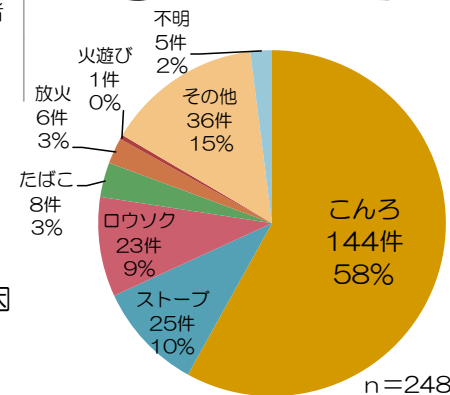
着衣着火による高齢者の死者が多発!

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。平成 25 年は、件数については減少しましたが、死者は 7 人発生しており、そのうち 6 人が高齢者です。



着衣着火件数・死者数・傷者数 (H23~H25 住宅内 自損は除く)

着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災が、約 6 割を占めています。

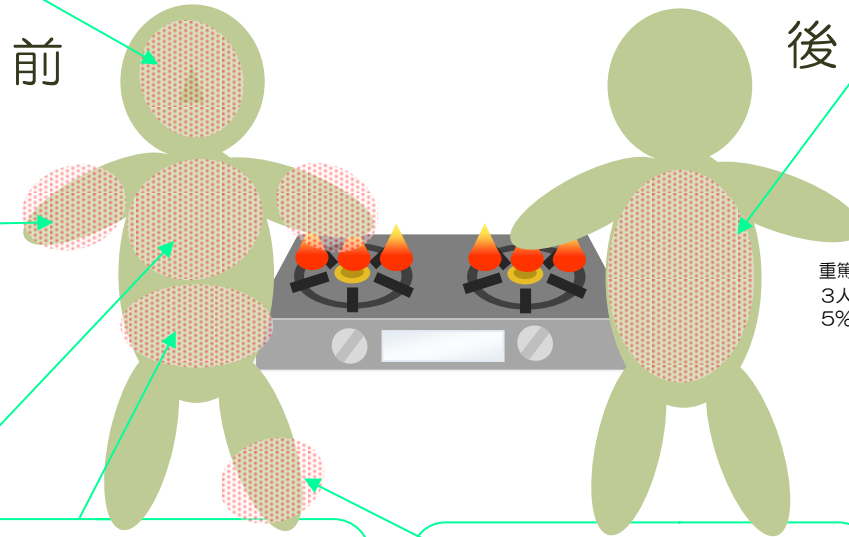


出火原因別着衣着火件数 (平成 21 年~25 年)

→ こんろによる火災の事例は、次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去5年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。(平成21~25年 全144件 死者8人 傷者143人)



顔 (3人)

女性 40代は、首にスカーフを巻いたままこんろに火をつけたため、火が垂れ下ったスカーフに燃え移り受傷した。(中等症)

手、前腕部、上腕部 (46人)

- ① 女性 80代は、フライパンで調理中、ふたを取ろうとしたときに着衣の上腕部に着火。(中等症)
- ② 女性 70代は、やかんでお湯を沸かすときに、火力を強めたところ、右前腕部の着衣に着火。(重症)



胸部 (16人)

女性 30代は、調理中、着ていたパーカーの紐にこんろの火が燃え移り受傷。(重症)

腹部 (11人)

女性 50代は、お湯を沸かすため、こんろの火をつけたときにボタンを閉めていなかった着衣に着火したもの。(軽症)

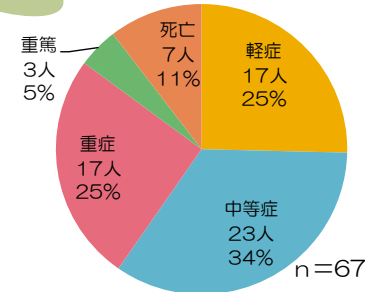
足部 (3人)

女性 90代は、カセットこんろで暖をとっていたところ着衣に火が触れて着火(重篤)

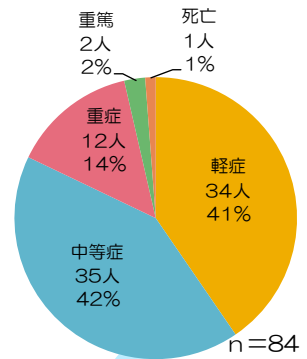
背部 (17人)

男性 60代は、調理中、こんろに背を向け冷蔵庫を見ていたところ、着衣の背部に着火したもの。(中等症)

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合があります。

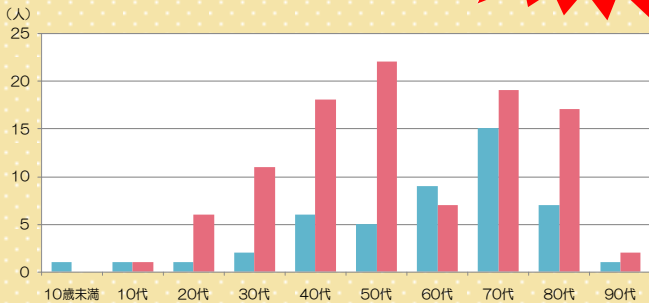


受傷程度別件数 (65歳以上)



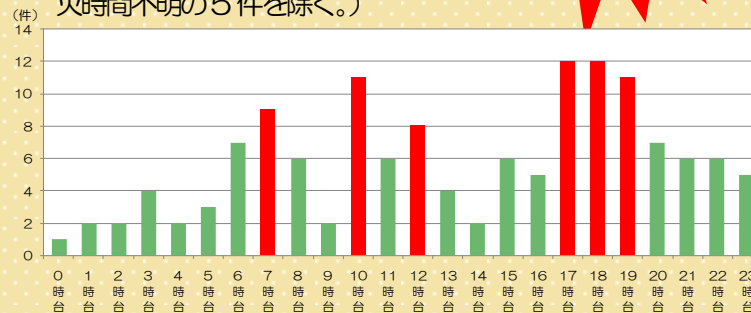
受傷程度別件数 (65歳未満)

女性は、男性の2倍以上の件数発生しています。年齢では、70代が最も多く、女性だけでみると50代が最も多いです。



【性別・年齢】

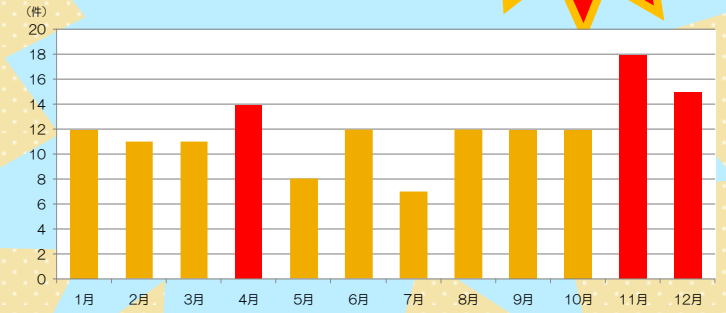
17時台~19時台に最も多く発生しています。また7時台、10時台、12時台にも多く発生しており、食事の準備のときに注意が必要です。(出火時間不明の5件を除く。)



【発生時刻】

食事の準備

11月に最も多く発生しています。厚着をする冬場や、服装の変化する季節の変わり目に多く発生しています。



【発生月】

生活・服装の変化